

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

2018-2019年度 国際ロータリー会長 バリー・ラシン



2018-2019年度

会長: 榎野智之 幹事: 石川一郎 クラブ会報委員長: 服部雅紀

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ホテルナゴヤキャッスル 名古屋西区樋の口町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2019 March 20

■ 2018~2019年度方針
ロータリー友情を育み、絆を深めよう

NO.33

例会報告

●第2259回例会 平成31年3月20日(水) 晴

●3月は水と衛生月間

●ロータリーソング 手に手つないで

●出席報告 会員 87 名中 出席50名
(78)

出席率64.10% 修正出席率82.50%
(3月6日分)

●ゲスト紹介

・ゲストスピーカー

美術評論家

岩佐倫太郎氏

・元米山奨学生

ダオ・トリン・チン・ニャン君

●ニコボックス

「卓話に岩佐倫太郎さんをお呼びしました。みなさん宜しくお祈りします。」 田中正次君

「3月27日夜桜例会(お花見夜間例会)の参加をお願いします。めったに聞けない長唄が聞けますよ。詳しくは富島先生が、本日ご案内されます。」 宮崎卓也君

「ニャン君博士号修得おめでとう。あれから8年、よくがんばりましたね。」

当時会長、幹事 加治佐健二君、林 邦司君
「ニャン君、愛知学院大学大学院の博士号を取得されたこと誠におめでとうございます。」中条忠直君
「ニャンくん、おめでとう!!よく頑張った!!」 小栗正章君

「今日は本当にいい天気で気持ちいいです。」 石川一郎君

「特にないけど確定申告が終わりました。」 浅野 洋君

本日のニコボックス	7件	22,000円
累 計	184件	1,379,150円



榎野智之会長挨拶

『加藤 清正』

名古屋は中村区にある豊国神社は豊臣秀吉の出生地であります。その神社から僅か100mほど東に離れた場所に加藤清正は生まれました。

9歳の時、母方の親戚である秀吉に小姓として仕え始めます。

頭角を現したのは信長の死後、秀吉が柴田勝家と天下を争った賤ヶ岳の戦いである。この時、清正は22歳。27歳の時、秀吉は肥後の国の大名に清正を抜擢します。

その頃肥後は、その統治は困難を極めていました。利権を奪われた国衆が反抗し大掛かりな一揆が勃発し、前任者の佐々成政は責任を問われ切腹に追い込まれていた。清正は秀吉の期待に応えようと、不慣れた土地に果敢に立ち向かっていきました。

「加藤清正掟書」によると、『一揆に加わった平百姓はその罪を許す。これまで通り耕作せよ。』と書かれています。一方的に力で押さえつけるのではなく民に歩み寄る。清正ならではの統治策が読み取れます。

ところが、清正37歳の時、人生最大の岐路が訪れます。

豊臣秀吉死去。秀頼その時わずか6歳。政治の主導権を巡る激しい争いが始まります。この時、清正は熊本城築城を決意。しかし豊臣政権は転換期を迎えていました。中でも不穏な動きを見せていたのが徳川家康。秀吉の遺言に逆らい大名との政略結婚を次々と進めたいきました。家康は自らの支持を固めた上で大阪城に入城。天下の政治を我が物顔に取り仕切り始めます。秀頼を支える地位にあった石田光成はこれに反発。家康を抑えるべく動き出す。

こうして冬の陣、夏の陣に繋がっていきます。

さて、清正の築いた熊本城とは。櫓を支える石垣は高い所では20mの高さを誇り武者返しといわれる急な傾斜が敵の攻撃を阻みます。

石川一郎幹事報告

▽当クラブ行事予定

・3月20日(水) 本日例会終了後、理事会を開催致します。

※理事及び役員のご出席をお願い致します。

・3月27日(水) お花見夜間例会

※時間は18時~、場所はホテルナゴヤキャッスルです。

難攻不落の巨大城郭を築いた清正は、一体どのような戦略があったのでしょうか？

熊本城本丸御殿藩主の居住する若松の間の奥に部屋が設けている。それは狩能派の絵師による極彩色に彩られた「昭君之間」。これは、折上格天井（おりあげごうてんじょう）という大変高価なしつらいをしてあり、いざという時には秀頼公を熊本城に迎え入れてここで守る。という決意の現れと考えられます。

今も熊本では（清正の）菩提寺の本妙寺において清正の命日には盛大な祀りが執り行なわれ10万人以上が祈りを奉げるといわれています。一途に忠義を奉げた清正の生き様は400年以上たった今でも熊本の人々の誇りなのです。

卓 話

家康と琳派



美術評論家 岩 佐 倫太郎
0. ビジネス・リーダーが美術から学ぶもの

近頃、ビジネスの人たちの集まりでも、美術の話をして頂くことが増えました。ビジネス・リーダーにとって、絵を見ると言うのは、論理的・言語的な左脳を休ませ、感性の右脳を活性化し、発想の引き出しを増やすと言う意味もあるでしょう。理屈や説明を抜きにして世界をありのままに、色や形

などを通じた直接体感でグリップするのは、MBA思考を越えた経営発想の転換かもしれない。デザインや映像が重要な感性消費とも言われる時代、アートを理解するのは経営者にとっても大きな助けになると思われれます。

1. 三英傑は美術のパトロンだった

ヨーロッパではスペイン王室が美術を保護して後のプラド美術館が生まれ、ウィーンのパプスブルグ家も膨大な美術コレクションを築いて、西洋美術の基礎をつくった。同様にわが日本においては、中部の三英傑が、美のパトロンとして役割を果たし、日本美の伝統のもとを作って来たといえます。信長・秀吉の織豊政権は狩野派、家康は本阿弥光悦ら「琳派」を重用して、日本の美意識の源流を作り出す。琳派に影響された大衆的な浮世絵はヨーロッパに流出して、「印象派」を生むきっかけとなった。この事実は日本と西洋の文化交流を知るうえでとても重要です。

2. 琳派を生んだ「家康」

琳派の出自は1615年、大坂夏の陣の後、本阿弥光悦が家康より京都・鷹峯の土地を拝領して、一族と移住し芸術村をつくったのが始まりとされる。その事実は間違いないが、動機が芸術家への単なる厚遇ではなく、実は孫娘の和子（まさこ）の入内の準備のため、婚礼調度やパレード用品を作らせるためではなかったか。屏風絵に残る壮麗な婚儀の模様を見れば、輿、牛車ほかパレードを美しく飾る大道具、小道具類、膨大な数の長持ちに収められた品々は、光悦村で分業で制作され組み立てられたに違いない。そう考えると8万坪という広大に過ぎる敷地も、工場めいた家の配置も納得がいきます。また敷地内を縦断する中央

の大通りは、南下するとそのまま徳川の二条城につながるが、それを偶然と言えるでしょうか。

3. 琳派をつないだ和子（まさこ）

和子は入内した後、大変な着物道楽ぶりを発揮し、ある時など半年で現在価格に直すと2億円近い金額を、尾形光琳の実家である「雁金屋」に払った記録がある。おかげで、光琳は40歳近くまで働かず放浪を繰り返すが、このとんでもないゆっくりした学びの時間と実家の財力が、天才を世に送り出すに大いに寄与したと思われる。ちなみに、光悦村で光悦をサポートしたのが光琳の祖父、呉服商の尾形宗伯。光琳は光悦と姻戚関係でもある。従って、家康とその孫、和子は入内を契機に多大な仕事の発注で琳派を興隆させ、その後も一貫して、呉服を通じて琳派を経済的に支え続けたといえます。

4. 琳派の美意識は、「印象派」にも日本の近代絵画にも受け継がれる

ドゴール政権のフランスの文化大臣アンドレ・マルローも言うように、「浮世絵が印象派を作った」のであって、その逆ではない。印象派はゴッホやマティス、ピカソにも影響を与えているから、まず「琳派⇒浮世絵⇒印象派の西洋近代絵画の流れ」を、「基本のキ」として日本のビジネス・リーダーの皆さんにもぜひ知っておいていただきたい。近代から現代の日本画も同様に、家康はじめ徳川家が保護し重用した琳派の流れを汲んでいる。今日の美術やデザイン感覚さえも琳派と地続きでつながっていて、美の規範としてわれわれの中に今も、伝統として流れているのを感じて頂ければ幸いです。

●第9回理事会（平成31年3月20日（水）例会終了後ホテルナゴヤキャッスル）

- 1 新入会員候補者 山崎健而（やまざきけんじ）氏 入会の件（本多君紹介）
- 2 上記に伴う職業分類オープンに伴う医療関連 社会福祉施設
- 3 IM実行委員会、組織図の件
- 4 春の家族会の件
- 5 その他

例会	月日	今後の予定
第2260回	3.27	お花見夜間例会 18:00～ ホテルナゴヤキャッスル (お昼の例会はございません)
第2261回	4.4	6RC合同例会 12:30～ ホテルナゴヤキャッスル (名古屋東山RCホスト) (4/3(水)の例会はございません)
第2262回	4.10	中国琴演奏者 王 敏さん
第2263回	4.17	会員 夏目 稔君 「和合RCの歩み」
第2264回	4.24	弁護士 山本公亮氏 「ITなどに関するテーマ」

○このウィクリーは再生紙を使用しております。